碩心

社団法人　日本詩吟学院岳風会　認可
神奈川　碩心会　発行

2年2月現在会員数	
逗子地区	161名
葉山地区	264名
大船地区	4名
（合計）	（470名）

2年2月号（211号）
発行者
根岸岳萃
編集者
中村愛岳

東照公御遺訓

人の一生は
重荷を負て遠き道を行くが如し
いそぐべからず
不自由を常とおもへば不足なし
心に望おこらば困窮したる時を思ひ出すべし
勤忍は無事長久の基
いかりは敵とおもへ
勝事ばかり知りて負くる事をしらざれば
害その身にいたる
おのれを責めて人をせむるな
及ばざるは過ぎたるよりまされり

東照公（徳川家康）

"鳴かなくば鳴くまで待とうほととぎす"の句にあるように、家康は非常に気の長い人だといわれているが、ほんとうは気の短い人であったが、修養して気が長い性格になったといわれる。

徳川家は祖父清康の代に岡崎城に移り、三河一国を手に入れる勢力となったが、家康の生まれた頃は、東に今川、西に織田という二つの強力な勢力にはさまれて苦しい立場に立たされていた。

そして三河統一を進めていた祖父清康が尾張出兵を前に部下に殺され、父広忠の急死により、主のいない三河は、今川氏の保護領となり、三河家臣団の忍従の生活が始まり、家康は十二年に及ぶ人質生活を駿府で過すことになった。しかしこの間囚われの身ながらも学問の手ほどきを受けた。そして十六才の時、今川氏の重臣の娘と結婚したのが築山殿で家康より八つ年上だった。

のち今川義元は桶狭間で織田信長の奇襲を受けて戦死。信長の運命を大きく展開させるとともに、家康の生涯にも一大転換をもたらした。ようやく人質生活から解放された時十九才。家康は今川氏と関係を断ち織田と同盟を結んだが、今川氏の遺臣達が

反旗を翻し、一時窮地に追いこまれたが、徹底的に戦い抜き、巧みな政治手腕でこれを鎮圧、三河統一事業を成し遂げた。

三河統一のあと二十九才の時、浜松城に居を移したが、二年後武田信玄軍に敗れ、家康はやっとの思いで浜松城に逃げ返ったが、この敗戦を胆に銘じ、のちのちも慢心の戒めとしたという。世にいう三方ケ原の合戦である。

その敗戦から七年ののち、家康にもう一つの失敗がある。彼は妻の築山殿と、長男信康をわが手で殺害したのである。築山殿は悪妻といわれ、長男信康に信長の娘徳姫を迎えたが、築山殿とは折合が悪く、母思いの信康とも合わなくなった。まだ力の弱かった家康は、信長の要求によって、涙をのんで築山殿を殺害させ、信康には切腹を命じなければならなかった。この徳川家の悲劇は、後世悔やんでも悔やみきれない悲痛な体験で、家康に又一つの教訓を残した。

〝人の一生は、重荷を負うて遠き道をゆくが如し……〟家康の教訓として知られるこの言葉は、のちの世の人が家康の特性を儒教の立場から潤色して作ったものと言われる。しかし、この短い言葉の中にも、若き日の家康の苦闘の歴史と、人間像を読みとることができる。

練吟メモ

君が代

○詩吟の大会は、会場正面に国旗が掲げられ、修礼が行われてから始められる。小・中学校などで今もって、国旗並びに国歌の取扱いで論議が絶えないようであるが、オリンピックのテレビ中継でもおわかりのように、各国とも勝利者には自国の国旗を掲げ、国家を演奏して祝福している。体育でもしかり、ましてや国の祝いごとなどで何でいけないことがあろうか。

○「日の丸」や「君が代」は、天皇至上主義や軍国主義を復活させるとして、敬遠あるいは排斥する風潮があるが、とうてい賛成できない。国旗とは「国家を象徴する旗であり」、国歌とは「国家的行事や国際的行事に際して国家および国民を象徴するものとして演奏される歌曲」（大辞林）である。「君が代」の場合、公に歌われる場が少なくなっているが、国旗や国歌のない国など考えられないのが常識であろうと思うのである。

○参考までに世界各国の中から、おもな国の国歌の歌詞を紹介する。アメリカは「弾丸降るいくさの庭に」、イギリス「敵をしりぞけたまえ」、フランス「悪魔のごとく敵は血に飢えたり」、イタリア「剣をとれ命ささげん国のため」、メキシコ「攻めくる敵にあたり、示せよその力を」など。以上すべて戦いの歌詞であるが、これにくらべると日本の「君が代」は、いわゆる好戦的な歌詞はまったく入っていない。

○国旗はさておき、「君が代」の元となった原歌は、古今和歌集（九〇五）「賀」の部に、また、和漢朗詠集（一〇四一）では「祝」の部に、いずれも「詠み人知らず」で「わが君は千代に八千代にさざれ石の巌となりて苔のむすまで」の和歌であり、これを改めたものである。「わが君」の君は主君でも、主人でも恋人でもよい。細石は中国及び日本の民間信仰から出たもの。

○この歌が国歌として選ばれた経緯は、明治五年、明治天皇が京都を出発し、始めて東京に移られるとき、横浜に駐留中のイギリスとフランスの軍楽隊がお迎えに出た時演奏する国歌がないことからであった。東京警備隊の大山巌がこれを聞き、苦心の末琵琶の「蓬莱山」からこの歌詞を選び出し早速作曲依頼にとりかかった。しかしこれが難航、ようやく明治十三年に宮内省雅楽課ででき上った。現在、この曲を重いと評する者があるが、日本的音階で、格調が高く、荘厳雄大であるとする音楽家もいる。

雪の稽古日（堀内支部・D）

一月十六日はわが教室の今年最初のお稽古日。この日は思いがけなく朝から雪が降りしきり、出足を心配していたが、積雪の中をまず最初に、今日から再入会の鈴木静山氏が見えられ、つゞいてこの二月で満89才を迎える高梨誓岳さんが…。私は思わず「よくきてくれましたね、ありがとう」と手を握ってしまいました。そして逗子から通われる徳本華山さん、石黒恵山さんと次次みえられ、皆さんの熱心さに応えて今年もがんばらなくっちゃ!!と私は心に誓った。

一年の最初ということで、私は前以って新年にふさわしい〝昭和天皇御製・松上雪〟と、石川啄木の短歌〝今年こそ〟のプリントを用意しておきました。

昭和天皇御製・松上雪

ふりつもるみ雪にたへていろかへぬ
松ぞををしき人もかくあれ

短歌・今年こそ　石川啄木

今年こそなにかよいことあるごとし
元旦の朝晴れて風なし

雪見障子をあげ、積雪の庭を眺めながらのお稽古は〝松上雪〟がまさにぴったりでした。今年こそなにかよいことあるごとし。

愛岳

碩心会平成２年初吟会会計報告

会員２４０名　招待４名　　（平成2. 1. 14　於：逗子京急ビーチセンター）

収入の部

摘要	金額	備考
会費	720,000	3000×240
指導者会より寄附	25,000	
祝儀	30,000	松井先生 岡嶋〃 安孫子〃 鹿嶋〃 小林紫舟先生
あきびん回収	670	
本部会計より補助	69,730	
計	845,400	

現品寄附
元会員　中山博様　清酒２本
笠原商店様　〃　３本
ビール若干

支出の部

摘要	金額	備考
ビーチセンター関係	209,000	
会場費	180,000	
持込料	24,000	
心付	5,000	
弁当	366,000	1500×244
つまみ	73,500	300×245
みかん	18,000	480コ
飲物	114,900	
清酒一級	1,750	1本
ビール（大）	36,900	300×123
ワンカップ	51,450	210×245
缶ジュース	24,500	100×245
コップ不足分補償	300	
余興参加賞	10,000	ティッシュペーパー200人分
プロ，名札紙筆料	3,000	
会議費	7,500	3回
先生に車代	30,000	5先生
コピー代	2,000	
お茶	2,200	400 g
通信連絡費	1,500	
消耗品費	1,800	
担当支部へお茶代	6,000	
計	845,400	

平成２年１月２０日　以上の通り報告いたします。

担当支部　一色B　加藤朋岳 ㊞
鈴木虎風 ㊞
鈴木英風 ㊞
広瀬晴風 ㊞

企画　部長　千葉香岳 ㊞
〃　副部長（代）　村田瀞岳 ㊞

碩心会

平成二年度初吟会に参加して

長柄支部　舟渡舟岳

昨年の初吟会は、昭和天皇崩御に対し、碩心会としても自粛の念から中止となったが、年号も平成となり、早くも一年が過ぎ、新しい年を迎え、21世紀に向い吟道の躍進を願って、一月十四日(日)逗子京急ビーチセンターに於て、碩心会初吟会が行なわれた。

当日は澄みきった晴天に恵まれ、会場からは、嶺に白雪をいただく雄大な日本の象徴富士山を中央に、伊豆、箱根の連山が並び、目の前には緑の江の島が浮んで、いっぷくの絵をみるようで倖せそのもの。

よい日和となり、三々五々会場に入る。役員女性の方達の笑顔に迎えられ、会場に入ればもう熱気むんむん。楽しい音楽の流れ、女性の和服姿に心がなごむ。その中で役員・幹部の方達が忙しく立ち働いていて、御苦労様のひとことです。今年は一色B、滝の坂、上原、唐木山支部が当番で、配膳もずっかり整っており、次回我々の当番の廻ってきた時を想像しながら着席する。

定刻十時、加藤圭岳先生の司会により、沼田岳雷先生の開会のことばで幕があいた。つづいて中村幸岳先生の先導で「碩心会の詩」を新年の第一声で合吟した。

わが名誉会長松井岳洋先生は、御多忙の中御参加下さり、新年にふさわしい「建設の賦」を朗々と吟じて下さり、次なる会が終り次第又戻る事を約され、席を立たれた。

次に毎年順番制で支部毎の合吟が行なわれ、そのあと、指導者の先生方の合吟が男女別に行なわれ、見事であった。

そしてお待ちかね、御招待の岡嶋岳凰先生、安孫子岳晴先生、鹿嶋岳久先生のすばらしい吟の御披露があり、つづいてわが会の副会長・小峯桜岳・加藤岳相、相談役三井岳麓、会長根岸岳萃先生方が声高らかに吟じられた。つづいて恒例の詩舞、祝舞が披露された。小林紫舟、千葉佳香、中村京愛先生の舞が、加藤圭岳、松井正風、矢嶋悦岳先生の伴吟により、見事に舞い納められた。そのあと加藤岳相先生の乾杯により式典はひとまず終った。

午後の懇親会の前に、今年から、会員増加に尽力された方に「吟道普及賞」が贈られることになり、鈴木孝岳・山口夕岳・村田瀞岳・松井正風の四氏にトロフィーが渡された。おめでとうございます。

さていよいよお楽しみの懇親会、まず今回の当番の方々の紹介があり、拍手がおくられ、当番支部の方達の交代の司会で、次次と楽しい演芸が行なわれた。民謡・歌謡、日本舞踊、寸芸等々…。チームワークのよさで花笠音頭、相川音頭等よかった。わが長柄支部の笠原珠岳さんの〝おてもやん〟は年期が入った踊りで楽しかった。合間に御招待の先生方のすばらしい歌の披露あり、わが根岸会長の例の「万里の長城で…」で益々盛り上った。

最後は例により例のダンス、炭坑節で終り、森田暁岳先生の閉会の言葉、岡嶋先生の音頭で万才三唱、明るく楽しい初吟会は盛会の裡に無事終りました。

◎全国大会参加県本部吟行会

とき・平成2年10月7日(日)～9日(火)
会　費・六万四千円（含・出吟料・雑費）
申込〆切・2月末日・各地区長→村田瀞岳
第一日・バスで各地出発・全国大会・河口湖
第二日・河口湖・黒部ダム・大観峰・信濃大町
第三日・信濃大町・安曇野・松本・相模湖・各地解散

（入　会）

556 鈴木静山(再)葉山町堀内一九八〇
（堀内・D）(電)〇四六八―七五―二二三五

557 荒井チヨ　葉山町長柄九八五
（長　柄）(電)〇四六八―七五―〇六一九

（退　会）

435 平野礼泉(死)（沼　間）